## 黙想:復活の金曜日 (ティベリアス湖畔 にて)

黙想のテーマ「岸辺のイエスに驚く弟子たち」「ヨハネとペトロ、復活の主を認知する」「私たち全員が網を降ろすよう招かれている」

岸辺のイエスに驚く弟子たち

ヨハネとペトロ、復活の主を認知する る

<u>私たち全員が網を降ろすよう招かれ</u> ている エルサレムでのご出現後、使徒たち は出身地に帰りました。婦人たちが |ガリラヤへ行くように (…)。そこ でわたしに会うことになる | (マタ イ28・10) というキリストのメッ セージを伝えていたからです。カ ファルナウムは彼らが召し出しの道 を歩み始めたところです。主は再 度、彼らをそこに集めようと思われ たのです。ある日、数人の弟子はペ トロとヨハネと一緒に、ティベリア ス湖に漁に出ました。いつものよう に明け方、戻ることにしましたが、 一晩の努力も空しく網は空っぽで す。こういう状態で日が昇り始めた ので舟を岸につけようとしていまし た。「イエスが岸に立っておられ た。だが、弟子たちは、それがイエ スだとは分からなかった」(ヨハネ 21・4)。「全てが終わったと思われ たとき、イエスは、エマオ途上と同 じように、友人たちに自身を現され ます。今度は、人生途上の困難や試

練を彷彿させる海においてでした」 [1]。

弟子たちはその時、主を判別できません。岸から「子たちよ、何か食べ物があるか」(ヨハネ21・5)と、ちょっと変わった頼みが届きます。 聖ホセマリアがコメントします。

「何と人間味あふれる出来事でしょ う。神が被告物の人間に食べ物を所 望されます。神が私たちを必要とな さるのです。神の偉大さの何と美し く、何と不可思議なことでしょう。 何事も必要となさらない (…)、し かし、同時に神は私たちを、あなた と私を必要とされるのですした。漁 師たちは、沖に出て一晩中漁に精を 出したにも関わらず、何もとれず疲 れていました。それで岸に目をやる のでもなく、何もないことを告げま す。その時、イエスは全能の力を示 されます。睡魔を払いのけ、より深 く神について考え、超自然的見方を 深めるよう、彼らの心を揺り動かし

ます。「イエスは言われた。『船の右側に網を打ちなさい。そうすいを打ちない。そうすいの名はずだ』」(3 かいらもないがらもらがいて休らからないでした。ないでした。ないでしたの道を開きませんで、ありが働くための見込みや希望をはいるないでした。

見知らぬ人の勧めに従い、舟の右舷 に網を打ちました。すると、すぐに 手ごたえがあったのです。それは 「魚があまり多くて、もはや網を引 き上げることができな(い)」(ヨ ハネ21・6)ほどの量でした。ヨハネ ーイエスが愛しておられた弟子一の 心に大きな希望が芽生え始めまし た。イエスが彼を選ばれた日のことを思いだしたでしょう。あの日も同じように一晩働いた後でした。奇跡を起こしたのが誰であるかが分かるやいなや「ペトロに、『主だ』と言った」(ヨハネ21・7)。

ヨハネは愛の最高の象徴です。カル ワリオに留まり、今は、岸から見て いる主を見分けることができます。 「彼は清らかな献身を、常に純粋に 保ち、ためらうことなく若い時から 全てを神に捧げていました。それ で、主を見分けることができたので す。神に関することにおいては、特 別な感受性、清めが必要です。神は もちろん、サウロやバラムなどのよ うな罪人たちにも臨まれました。し かし、通常、私たちの主なる神は、 人間が神のしるしを知るための特別 な力を、献身と愛によって培うよう お望みですしょ。シモン・ペトロ は、ヨハネの言葉を聞くや、一刻も 早くイエスに会おうと海に飛び込み

ました。「ペトロは信仰そのもので す。あふれんばかりの勇気に満ちて 湖に飛び込みました。ヨハネの愛と ペトロの信仰があれば、私たちにで きないことなどないのではないで しょうか | 国と、聖ホセマリアが 言っています。主は、遠目にも主を 見分けることのできるヨハネの細や かな愛情と、できるだけ早く岸に着 こうと行動する向こう見ずな、とも 言えるペトロの信仰をお喜びになり ます。あの二人の使徒たちと同じよ うに、主は人々の心を捉えるため、 欠点さえも含んだ、ありのままの私 たちを必要としておられます。私た ちは自分の欠点をたびたび重荷に感 じたり、それが主のお望みの邪魔し ているのではと思ったりします。と ころが神は、私たちの欠点を、自由 に無償で奇跡をするための機会とし て活用されます。主は私たちを非難 せず、ありのままの私たちを優しく 受け止め、新たにし、使命を果たす ように什向けます。

あの朝、良質の魚がたくさん取れま した。主は、取れた魚を幾つか持っ てくるよう頼みました。漁師として の仕事を知り尽くしているペトロ が、主のおそば近くに置こうと、獲 物でいっぱいの網を岸に引き上げま す。イエスが、彼らのため準備され た朝食が終わると、彼らは感動のう ちに湖からとれた「153匹の大きな 魚 (ヨハネ21・11)を一つひとつ 数えました。主の寛大さは計り知れ ないものです。彼らはカナでパンと 魚の奇跡に立ち合い、今また改め て、大漁の魚を目の当たりにしてい ます。主には限界がありません。後 年、聖パウロが、その最たるものが 十字架のいけにえであるとローマの 信者に書き送っています。「わたし たちすべてのために、その御子をさ え惜しまず死に渡された方は、御子 と一緒にすべてのものをわたしたち

に賜らないはずがありましょうか」 (ローマ8·32)。

「網を打ちなさい。そうすればとれ るはずだ」(ヨハネ21・6)。キリス トのための魚には、「人間をとる漁 師」が必要です。漁のために夜でも 出かけ、主の指図に従って網を打つ 心づもりがある人たちです。自分の 疲れや経験よりもイエスに注目でき る漁師であり、主に派遣されたこと を確信して、福音のために働く漁師 たちです。しかし、主が大漁をお望 みであっても、実りは、神がお望み の時、主が予定された方法でもたら されます。「神は、その英知の神秘 的なご計画のうちに、いつ介入すべ きかをご存じです。それ故、主のみ 言葉に素直に従った弟子たちの網を いっぱいにされたように、私たちも 含めたいつの時代にも同じようにし てくださいます。この世における教 会の使命を効果あるものにするのは 主の霊なのですした。

イエスが準備されたパンと焼いた魚 を食べながら、弟子たちが「あなた はどなたですかしと、あえて尋ねな かったのは「主であることを知って いたから」(ヨハネ21・12)です。 私たちの周りの人々も、神への深い 渇きに促されて、内心、神に尋ねて います。「イエスと呼ばれるあなた はどんな方ですか。人道主義の素晴 らしい教えを人類に与えた先生、善 意の方ですか。あなたはそれだけの 方なのですか。あるいは、実際に生 きておられる神の御子なのですか | 161。私たちは、この世における主の 弟子ですから、すべての海に出てい くことを望んでいます。使徒の女王 であられる聖母の助けのもと、教会 とすべての人々への奉仕において、 いつも神のお望みの漁ができます。

- [1] ベネディクト十六世、説教、 2007年4月21日。
- [2] 聖ホセマリア、説教メモ、1958 年6月25日。
- [3] 同。
- [4] 聖ホセマリア、『神の朋友』266 番。
- [5] ベネディクト16世、説教、2007 年4月21日。
- [6] フランシスコ、説教、2013年4月14日。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-fukkatsu-no-kinyou/(2025/12/16)